

# 原 小 繁 盛 記

令和8年4月9日

呉市立原小学校  
校長 梶本浩史

## 〈令和8年度がスタートしました〉

4月8日（水）、令和8年度がスタートしました。静かだった校舎に、子供たちの元気な声と笑顔が戻り、学校全体が一気に明るさを取り戻しました。「おはようございます！」と弾む声、久しぶりに再会した友達と笑い合う姿。その一つ一つから、新しい一年の始まりへのわくわくした気持ちがあふれていました。

運動場で式を待つ間も、子供たちの胸は高鳴っています。「どんな教室かな」「担任の先生は誰だろう」そんな思いが伝わってくるようで、あちこちにそわそわ、ドキドキした表情が見られました。本校は単式学級のため、クラス替えはありません。6年間、同じ仲間と共に歩いていきます。その分、担任発表は子供たちにとって特別な瞬間です。期待と少しの緊張が入り混じった空気が、運動場いっぱいに広がっていました。

式は就任式に続き、始業式へと進みます。そしていよいよ、子供たちお待ちかねの担任発表です。名前が呼ばれるたびに、「えっ！」「やった！」といった驚きや喜びの小声があがり、子供たちの表情がくるくると変わります。予想していた通りだった子、思いがけない発表に目を丸くする子。どの子の姿にも、新しい出会いへの期待が輝いていました。その後は、新しい担任の先生とともに教室へ。いよいよ学級開きです。新しい教室での第一歩に、子供たちの心はさらに弾んでいるようでした。

午後からは、5・6年生が参加しての入学式を行いました。6年生は、新1年生の小さな手をやさしく引き、体育館へと入場します。歩調を合わせてゆっくり歩いたり、席まで丁寧に案内したりする姿からは、「最高学年として頑張ろう」という思いがしっかりと伝わってきました。その表情はとても頼もしく、リーダーとしての自覚に満ちあふれていました。

新しい学年、新しい出会い、新しい挑戦。子供たちの胸には、大きな期待が広がっています。この一年も、子供たちが毎日「学校が楽しい」と感じながら元気に登校できるよう、教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。

令和8年度も、どうぞよろしくお願いたします。



# 〈原小の伝統？1年生サポート隊〉

本校には、長く受け継がれてきた、あたたかな伝統があります。

朝、登校してくる新1年生を、下足場でそっと待つ6年生の姿です。少し緊張した面持ちでやってくる新1年生に、「おはよう」とやさしく声をかけ、靴を履き替えると、自然とその横に寄り添います。そして、一緒に1年生教室へ向かい、朝の準備をさりげなく手伝っていきます。

ランドセルから教科書や道具を取り出し、「これは机の中だね」「これはロッカーに入れようか」と一つ一つ丁寧に教える姿。提出物を確認しながら、「できたね」とほほえみかける様子。「この絵本でいい？」と優しく尋ね、絵本の読み聞かせをしている姿。それらのやり取りには、安心したように表情をやわらげる新1年生と、それを温かく見守る6年生のやさしさがあふれています。

誰かに頼まれたわけではありません。それでも、6年生たちは当たり前のようにその場に立ち、自然に関わろうとしています。きっと、自分たちが1年生だったとき、同じように手を差し伸べてもらった記憶が心に残っているのでしょう。そのぬくもりが、今度は自分たちの行動となって表れているのです。

毎年、新年度のこの時期になると見られるこの光景。そこには、本校が大切に育んできた「思いやりの心」と「つながりの文化」が、確かに息づいています。原小学校の誇りの一つとして、子供たちの心にしっかりと刻まれているように感じます。

時代が変わっても、人と人が支え合うあたたかさや、思いやりの心は、これからも大切に守り続けていきたい、かけがえのないものです。

